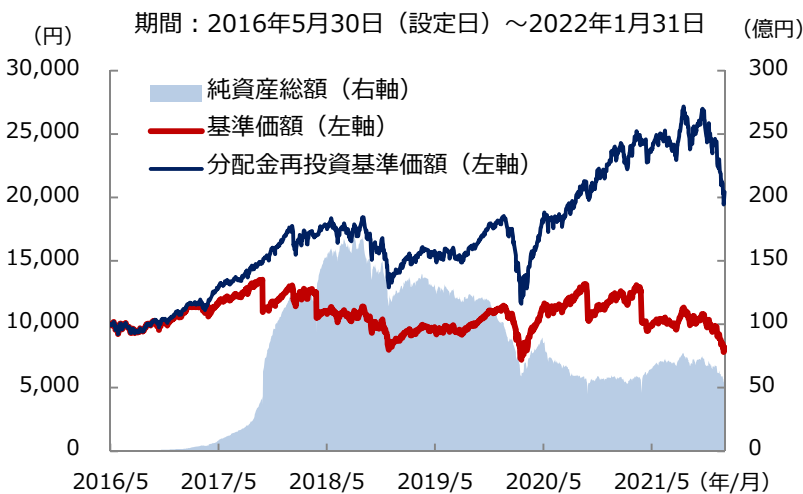


足元の市場動向と今後の見通し

平素は、「成長応援日本株ファンド（以下、「当ファンド」）」をご愛顧いただきまして、誠にありがとうございます。2021年11月半ば以降、当ファンドの基準価額は軟調な展開となり、2022年1月に入りさらに下げ幅を拡大しました。当レポートでは、足元の運用状況と今後の見通しなどについてご説明させていただきます。

<設定来の基準価額と純資産総額の推移>



<基準価額の騰落率>

2022年1月31日現在

	ファンド
1カ月前比	-16.45%
3カ月前比	-20.13%
6カ月前比	-15.43%
1年前比	-10.77%
3年前比	42.16%
設定来	104.46%

※基準価額の騰落率は分配金再投資基準価額で算出しています。

※ 基準価額は、運用管理費用（信託報酬）控除後の10,000口あたりの値です。

※ 分配金再投資基準価額は信託報酬控除後のものであり、分配金実績があった場合に税引前分配金を再投資したものととして算出しています。

● 足元の市場動向について

- ▶ 当ファンドの基準価額は、2021年9月末から11月下旬まではおおむね10,000円～11,000円のレンジ内での推移となりました。しかし、11月以降に、米国の金利上昇懸念や新型コロナウイルスの変異株（オミクロン株）の感染拡大懸念が広がり、投資家のリスクオフ姿勢が強まりました。その後、米国の利上げが前倒しになるとの観測が強まった影響などにより、国内株式市場に投資家のリスクオフ姿勢が広がりました。
- ▶ 2022年1月に入っても、この傾向は続きました。割高感がみられたグロース株が、バリュー株に対して軟調な展開となったことや、規模別でも大型株より中小型株の方が軟調な展開が続いた影響を受け、当ファンドの基準価額は、年初来16.4%下落しました。

● 今後の見通しについて

- ▶ 米国連邦準備制度理事会（FRB）は、市場が現在想定している利上げペースより前倒しで利上げを行う可能性があります。そのため、足元の下落局面から株価が回復に向かうには、米国の金融政策の正常化などが一旦織り込まれ、株式市場全体のボラティリティが落ち着く必要があるとみています。市場が次第に落ち着きを取り戻せば、企業業績の成長性が焦点となり、再び収益成長力の高い企業が存在するグロース株や中小型株が評価され、当ファンドの基準価額も回復に向かうと考えています。

※ 上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、当資料に掲載される予測、見通し、見解のいずれも実現される保証はありません。
※ 最終ページの「当資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご覧ください。

●投資助言会社エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社からのコメント

- ▶ 当ファンドは新たな高成長局面に入ろうとする革新的な成長企業を厳選していますが、中小型成長株投資にとって逆風となる足元の環境急変の影響をより大きく受けたと考えています。
- ▶ 足元、組入企業の業績見通しに大きな変化はないことから、株価は中長期的に業績に連動するという考えに基づくと、組入企業の株価は過小評価された状況にあると判断しています。このような状況は、2016年のトランプショックや2020年の新型コロナウイルス感染拡大懸念で大幅調整した局面と同様に長期化するとは考えにくく、株式市場が落ち着きを取り戻すと、市場の関心は再び企業の成長力に向かう可能性が高いと考えています。
- ▶ 現在、3月期決算企業の第3四半期の決算発表がピークを迎えていますが、組入企業の業績は全般的にほぼ想定通りに推移しています。これまでの長い経験と実績を踏まえると、このように過小評価が進んでいると考える状況を投資の好機ととらえ積極的な面談調査活動を行っています。
- ▶ 企業経営者との面談で最近実感していることは、資源価格上昇や円安への対応として値上げの検討を行う企業が増えている点です。人件費をはじめとしたコスト削減の対応で乗り切ろうとしてきた数年前の状況とは異なっており、企業が収益性の改善に注力する契機になることを期待しています。
- ▶ ポストコロナに向けてポジティブな見方を持ち、積極的な動きをする経営者も多く、2022年も引き続き様々な投資機会があると感じています。注目している企業や動向などは以下の通りです。

①新型コロナウイルスの感染拡大がきっかけで生まれる市場

- 企業の業務効率化と売上拡大の両面からニーズが拡大するDX（デジタルトランスフォーメーション）市場
- 企業経営の抜本的な見直しに向けて、外部プロ人材の積極活用などのアウトソーシング需要
- 新しい働き方やライフスタイルの多様化に即したサービス

②経済の正常化に向かう中で収益向上が期待できる企業

- 小売、外食、アミューズメント、観光など厳しい局面の中を勝ち残ってきた企業

③値上げによる収益性アップ

- 資源価格上昇や円安に対応して業界全体として値上げ機運が高まることで、付加価値に見合った価格引き上げが行える競争力の高い企業

④M&Aや事業再編の動き

- M&Aや事業再編による中長期的な収益拡大およびROE（自己資本利益率）改善が期待できる企業



エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社

【代表取締役と投資助言チームのご紹介】（右より）

宇佐美代表取締役
内藤執行役員チーフインベストメントオフィサー
金沢シニアインベストメントマネジャー
柳葉シニアインベストメントマネジャー
永嶋インベストメントマネジャー

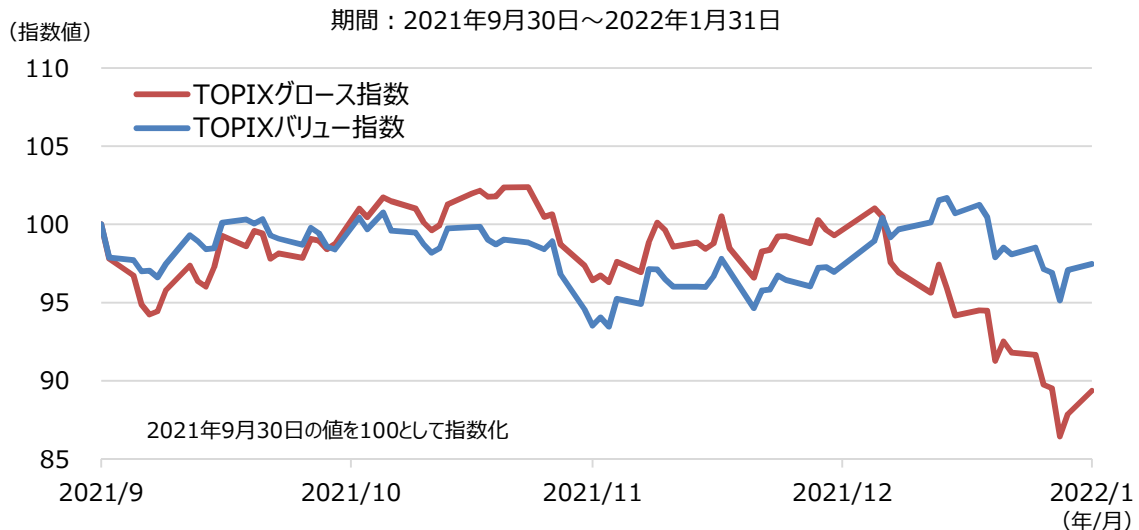
※出所：エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社



● <ご参考> 足元の国内株式動向

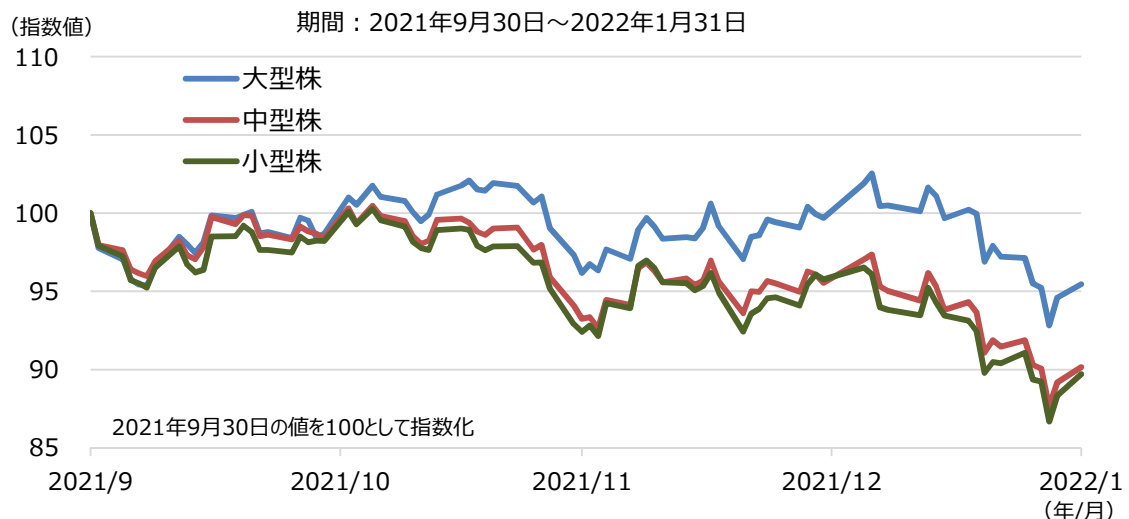
➤ 足元では、バリュー株よりグロース株が軟調となったことも当ファンドの下落要因になっています。

< TOPIXグロース指数とTOPIXバリュー指数のパフォーマンス推移 >



➤ 規模別でも中型株、小型株の方が大型株より軟調となったことが当ファンドの下落要因になっています。

< TOPIX規模別指数のパフォーマンス推移 >



大型株：TOPIX100 (TOPIX算出対象のうち、時価総額、流動性の高い100銘柄)
 中型株：TOPIX Mid400 (TOPIX100に次いで時価総額、流動性の高い400銘柄)
 小型株：TOPIX Small (TOPIXの算出対象から、TOPIX100、TOPIX Mid400の構成500銘柄を除いた銘柄)

※TOPIX関連指数 (TOPIXグロース指数、TOPIXバリュー指数および各規模別指数) は当ファンドのベンチマークではありません。
 出所：ブルームバーグのデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

ファンドの特色

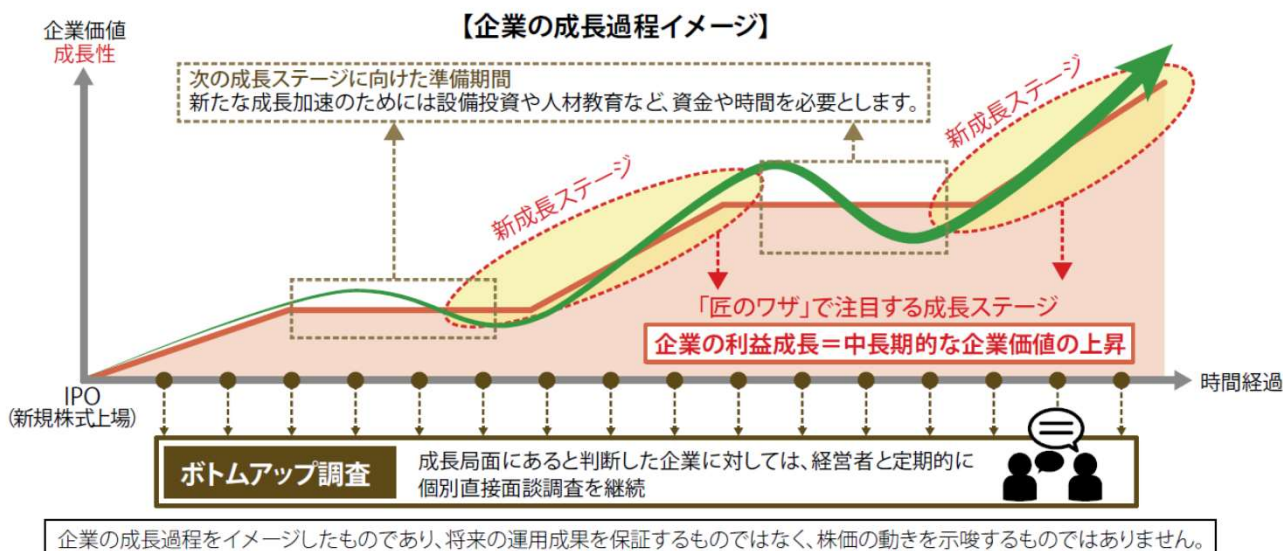
※詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください

特色
1

新成長銘柄^{*1}が主要投資対象

わが国の上場企業のうち、新たな成長局面に入りつつあると判断される成長企業に厳選投資します。当ファンドは、新成長株マザーファンドへの投資を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式（これに準ずるものを含みます。）を主要投資対象とし、信託財産の積極的な成長を目指して運用を行います。

*1 新成長銘柄とは、高い成長余力を有しているものの、経営上の課題・困難に直面したため本来の実力を発揮できなかった企業の中で、それらの経営障壁を克服しつつある企業を新成長銘柄（再成長銘柄）といいます。



特色
2

ボトムアップ調査^{*2}による新成長企業の発掘

投資に際しては徹底的なボトムアップ調査と詳細な分析に基づき「新成長企業」を厳選し投資します。

*2 ボトムアップ調査とは、個別企業の訪問等による詳細な調査・分析に基づき業績予測を行い、投資する銘柄を選択する運用手法です。

特色
3

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社が投資助言

エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社（以下「エンジェルジャパン社」ということがあります。）より投資に関する助言を受けて運用を行います。

エンジェルジャパン社は成長株（新規株式公開企業を含む。）に特化して調査・分析を行うスペシャリスト集団です。継続的な経営者への個別直接面談調査などを通じて、新たな成長軌道への転換点を見極めます。

※資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

運用プロセス

エンジェルジャパン社の調査・運用助言体制



<ボトムアップ調査>

ファンドの組入銘柄の選定に際しては、継続的な経営者への個別直接面談調査などを通じて、新たな成長軌道への転換点を見極めます。

<分散投資の助言>

リスク管理の充実を図る観点から分散投資の助言を徹底します。分散投資の助言は「組入銘柄数」や「組入比率」などから管理し、評価の高い企業と判断されても組入れは一定比率以内に抑制するほか組入れの時間分散を行います。

<情報開示>

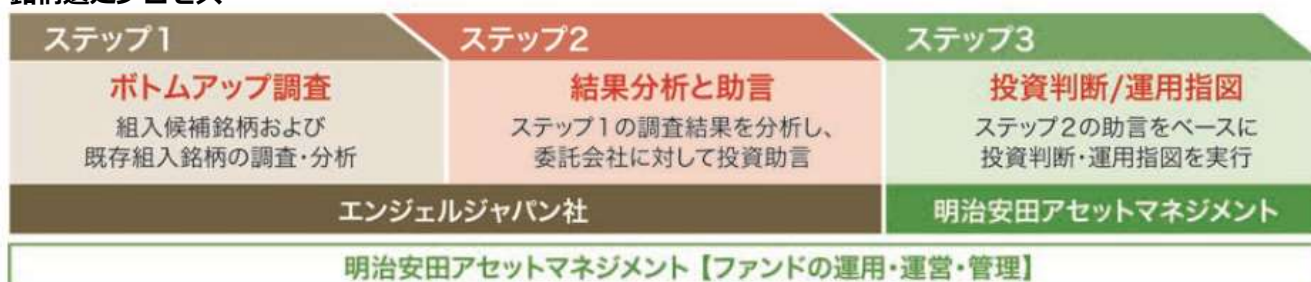
投資家の皆さまとの強い信頼関係構築のためには情報開示の徹底が不可欠であるとの信念から、委託会社に対し定期的レポートを提出します。

助言プロセス

投資候補企業への訪問	<ul style="list-style-type: none"> ● 有力組入候補企業の経営者との面談 ● 経営者への直接面談を行い、経営哲学、ビジネスモデル、経営課題等をヒアリング
調査・分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 面談の結果を基にビジネスモデルの独創性や収益性、独自の成長戦略や技術サービスを見極める ● 将来の業績予測を行い、収益性から見て割安感のある銘柄への投資を助言
ポートフォリオ	<ul style="list-style-type: none"> ● 魅力ある銘柄を組入れたポートフォリオでもリスク管理は徹底 ● 高い評価の企業であっても組入れは一定比率以内に抑制し、分散投資を徹底
既存組入企業への訪問	<ul style="list-style-type: none"> ● 組入企業の経営者とも定期的に直接面談し、企業を取巻く状況変化に対応
調査・分析	<ul style="list-style-type: none"> ● 上記の結果を踏まえてさらなる業績評価を行い、組入比率の見直しや売却を助言

※上記は、今後変更される場合があります。

銘柄選定プロセス



投資リスク

※詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください

基準価額の変動要因

成長応援日本株ファンドは、直接あるいはマザーファンドを通じて、国内の株式等、値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。**したがって、金融機関の預貯金と異なり投資元本は保証されず、元本を割り込むおそれがあります。また、ファンドの信託財産に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。**

なお、ファンドが有する主なリスクは、以下の通りです。

<主な変動要因>

株式変動リスク	株式の価格は、政治・経済情勢、金融情勢・金利変動等および発行体の企業の事業活動や財務状況等の影響を受けて変動します。保有する株式価格の下落は、ファンドの基準価額を下げる要因となります。
流動性リスク	株式を売買しようとする際、需要または供給が少ないため、希望する時期に、希望する価格で、希望する数量を売買できなくなることがあります。ファンドが保有する資産の市場における流動性が低くなった場合、売却が困難となり、当該資産の本来的な価値より大幅に低い価格で売却せざるを得ず、ファンドの基準価額を下げる要因となります。
信用リスク	投資している有価証券等の発行体において、利払いや償還金の支払い遅延等の債務不履行が起こる可能性があります。 また、有価証券への投資等ファンドに関する取引において、取引の相手方の業績悪化や倒産等による契約不履行が起こる可能性があります。

※基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短時間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価額で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性があります。
- 当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行います。ファミリーファンド方式には運用の効率性等の利点がありますが、マザーファンドにおいて他のベビーファンドの追加設定・解約等に伴う売買等を行う場合には、当ファンドの基準価額は影響を受けることがあります。
- 資金動向、市況動向等によっては、投資方針に沿った運用ができない場合があります。
- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。））を超えて行われる場合があるため、分配水準は必ずしも当該計算期間中の収益率を示すものではありません。投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本）の状況により、分配金額の全部または一部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。分配金は純資産から支払われるため、分配金支払いに伴う純資産の減少により基準価額が下落する要因となります。当該計算期間中の運用収益を超える分配を行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べ下落することとなります。



成長応援日本株ファンド 愛称：匠のワザ

追加型投信／国内／株式

販売用資料

お申込みメモ／ファンドの費用

※詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください

<お申込みメモ>

購入単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社へお問合わせください。
購入価額	購入申込受付日の基準価額とします。（基準価額は1万口当たりで表示しています。以下同じ。） ※基準価額は、販売会社または委託会社へお問合わせください。
購入代金	販売会社が指定する期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位とします。詳しくは販売会社へお問合わせください。
換金価額	換金申込受付日の基準価額から 0.3% の信託財産留保額を控除した額とします。
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から受益者に支払います。
申込締切時間	原則として、販売会社の営業日の午後3時までに販売会社が受付けた分を当日の申込みとします。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金の申込みには制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情があるときは、申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた申込みの受付を取消すことがあります。
信託期間	2016年5月30日から2026年4月23日まで
繰上償還	委託会社は、純資産総額が10億円を下回った場合、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。また、当ファンドにおける投資顧問契約（助言契約）が解約された場合には、受託会社と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。
決算日	4月および10月の各25日（休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年2回決算を行い、収益分配方針に基づいて分配を行います。 ※当ファンドには、「分配金受取りコース」および「分配金再投資コース」があります。なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については、異なる場合がありますので、販売会社へお問合わせください。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除の適用が可能です。益金不算入制度の適用はありません。

<ファンドの費用>

●投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入価額に、 3.3%（税抜3.0%） を上限として販売会社が定める率を乗じて得た額とします。詳細については、お申込みの各販売会社までお問合わせください。 ※購入時手数料は、購入時の商品説明、事務手続き等の対価として販売会社にお支払いいただきます。
信託財産留保額	換金申込受付日の基準価額に 0.3% の率を乗じて得た額を、ご換金時にご負担いただきます。

●投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に対し、 年1.87%（税抜1.7%） の率を乗じて得た額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、ファンドの日々の基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のとき、信託財産中から支払われます。		
	<内訳>		
	配分	料率（年率）	役務の内容
	委託会社	1.023% （税抜0.93%）	ファンドの運用、基準価額の算出、法定書類（目論見書、運用報告書、有価証券報告書・届出書等）の作成・印刷・交付および届出等にかかる費用の対価
	販売会社	0.759% （税抜0.69%）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口屋内でのファンドの管理等の対価
受託会社	0.088% （税抜0.08%）	ファンド財産の管理、委託会社からの指図の実行等の対価	
合計	1.87% （税抜1.7%）	運用管理費用（信託報酬）＝運用期間中の日々の基準価額×信託報酬率	
その他の費用・手数料	<p>※エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社に対する報酬は、ファンドから委託会社が受ける運用管理費用（信託報酬）の中から支払われます。</p> <p>信託財産の監査にかかる費用（監査費用）として監査法人に年0.0044%（税抜0.004%）を支払う他、有価証券等の売買の際に売買仲介人に支払う売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、その他信託事務の処理に要する諸費用等がある場合には、信託財産でご負担いただきます。</p> <p>※その他の費用については、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示することができません。また、監査費用は監査法人等によって見直され、変更される場合があります。</p>		

※当該手数料等の合計額については、投資者のみなさまの保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※最終ページの「当資料に関してご留意いただきたい事項」を必ずご覧ください。

成長応援日本株ファンド 愛称：匠のワザ

販売用資料

追加型投信／国内／株式

●委託会社その他の関係法人の概要

- ・委託会社（委託者） 明治安田アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第405号
加入協会：一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会
ファンドの運用の指図等を行います。
- ・受託会社（受託者） 株式会社りそな銀行 ファンドの財産の保管および管理等を行います。
- ・投資助言会社 エンジェルジャパン・アセットマネジメント株式会社：株式運用に関する助言を行います。
- ・販売会社 下記、販売会社一覧をご覧ください。

●販売会社一覧

お申込み・投資信託説明書（交付目論見書）のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください。

販売会社名	登録番号	加入協会					備考
		日本証券業協会	日本投資顧問業協会	一般社団法人 第一種金融商品取引業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	日本商品先物取引協会	
銀行							
株式会社静岡中央銀行	登録金融機関	東海財務局長（登金）第15号	○				
株式会社十八親和銀行	登録金融機関	福岡財務支局長（登金）第3号	○				
株式会社宮崎銀行	登録金融機関	九州財務局長（登金）第5号	○				
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○			○	
証券会社							
東海東京証券株式会社	金融商品取引業者	東海財務局長（金商）第140号	○		○	○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○			○	
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○	○
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○	
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○		○	○	

【当資料に関してご留意いただきたい事項】

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。
- 投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金と異なります。
- 投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。投資信託の運用による損益は、全て投資者のみなさまに帰属します。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではなく、また、登録金融機関から購入された投資信託は投資者保護基金の補償対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、当資料の記載内容、グラフ・数値等は資料作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料の運用実績に関するグラフ・数値等は、過去の実績を示したものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。各主体は、当ファンドの運用成果等に関し、一切責任はありません。

<使用インデックスについて>

TOPIX（東証株価指数）等東証が算出する株価指数は、株式会社東京証券取引所（㈱東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など指数に関するすべての権利は㈱東京証券取引所が有しています。なお、本商品は、㈱東京証券取引所により提供、保証又は販売されるものではなく、㈱東京証券取引所は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。



明治安田アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第405号
加入協会：一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会

- ファンドの基準価額等については、下記の照会先までお問合わせください。

明治安田アセットマネジメント株式会社

電話番号 0120-565787（受付時間は、営業日の午前9時～午後5時）

ホームページアドレス <https://www.myam.co.jp/>